

史上最年少永世クイーン

巻頭特集  
インタビュー

(競技かるた永世クイーン)

楠木 早紀  
さん

第60期



第58期クイーン決定戦(2014年)  
これに勝ち、10連覇達成!

# 自分を知って、 自分に勝つ!



第53期  
クイーン決定戦後、両親と  
2009年  
(史上最年少永世クイーンに)

## プロフィール

- 1989年 大分県生まれ
- 2005年 15才(中学3年生)で史上最年少クイーンに
- 2009年 大学1年生で5連覇を達成  
史上最年少で3人目の永世クイーンに
- 2014年 10連覇を達成(1月)  
福岡県にて小学校教諭として勤務(4月)  
クイーン決定戦出場辞退(了承される・10月)
- 2016年 競技かるたを題材とした映画「ちはやふる」公開

たいいていの競技かるたの選手は、試合相手の分析をしつかりしてから試合に臨むようです。でも、私は相手のことは一切気にしないで、とにかく自分を思いきり分析・研究しつくして、「自分に勝つ!」ことを目標にしてみました。

練習は全て動画で撮って、パソコンで見えて研究します。本当は、自分の嫌なところやごんどん見えてくるので、練習の様子なんて見たくないんですよ。「もつと手を下げて構えていないとだめだな。」とか、「今のは、しっかり記憶ができていないから、札を取るのが遅いな。」とか。でも、相手は私のことを研究してくるので、嫌なところも含めて自己分析して、自分が自分についていけば分かっているのではないかとダメだと思っています。

とにかく自分の研究を

# 「かるた永世クイーン」 楠木早紀さん



史上最年少永世クイーンになった  
第49期クイーン戦(2009年・大学1年生)

**小学校のころの思い出や、かるたとの出会いを教えてください。**

小学校三年生の夏休みのことです。同い年のいとこがかるた教室に通うことになり、それに無理やりついて行かされたのがきっかけです。そのときまで小倉百人一首というものを見たことがなかったので、上の句も下の句も意味が分かりませんでした。とにかく、よく分からなくて面白くなかったことを覚えています。でも教室の先生が、「二か月後に初心者大会があるから、百首全部覚えてら連れて行ってあげるよ。」というの



初心者大会優勝  
自宅玄関前で(小学校3年生)

で、必死でいごと百首を覚える競争をしました。当時、子どもたちが百首を覚えるのは、半年から一年くらいゆつくりかけるのが普通だったようですが、私たちは競争していたので、いとこは三週間、私は一か月で覚えることができました。

その初めての大会で優勝し、生まれて初めて大きいトロフィーをもらったこと、そして、両親や祖父母がとても喜んでくれたことが、競技かるたを続けるきっかけになりました。

**競技かるたを続ける中で、辛かったことはありましたか？**

中学三年生で、初めてかるたクイーンになる直前に、一度かるたをやめたいと思いましたが、

中学一年生のときには、A級(競技かるたの最上級)でも優勝できるようになり、周りからもクイーンへの期待が高まってきていました。そんな中、中学二年生で出場したクイーン位西日本予選で一回戦負けをしたのです。そのとき、父がすごく悔しがって落ち込んでいた姿を見て、「周りを悲しませるためにやるたをやっているんじゃない。」と思ったのです。

中学二年生では、自分たちが部活(ソフトテニス部)のメインとなり、かるたから少し遠ざかりました。遠ざかったのは、父の期待が重すぎて、逃げ出したいこともあったからです。そして中学三年生で部活を引退して、かるた大会の予選が始まる直前に、父に「今度の大会に出たくない! かるたをやめた!」と伝えたのです。

すると、父は、涙を流しながら、「そこまで追い詰めてごめん。でも、予選で負けたらやめてもいいから、最後に出てくれ。」と私に頼むのです。練習に付き合ってくれているときは、激しく厳しかった父に涙ながらに言われると、私も「それじゃあ、最後は頑張るか!」と気持ち切り替わりました。大会までわずかでしたが、悔いの残らないように本気で練習して臨みました。

**いちばん思い出に残る対戦を教えてください。**

最初にかるたクイーンになった、中学三年生の西日本予選の決勝です。とても運命的なのですが、決勝戦の相手が、中学二年生の西日本予選一回戦で負けた人だったのです。

その試合も、序盤は相当リードしていたのに、「これで勝ったら西日本の代表になれる。」と思った瞬間に体が固まってしまつて、結局一対一(残りの札が自陣と敵陣に一枚ずつになった状態)まで追いつかれてしまったのです。競技かるたの世界では、一対一の状態を「運命戦」といいます。次に読まれる札が自陣にある選手の方が、距離が近いために取る可能性が高く、どちらの陣の札が読まれるかを運命に任せるといふことです。

そのときは、先ほど言ったように「かるたをやめたい。」と思っていた時期だったので、「かるたをやめるか続けるかを、これで神様が決めるんだな。」と強く思いました。折しも、会場が、小倉百人一首の一番札を詠んだ天智天皇が祀られている神社ということもあり、「ここで全て決まるんだ。」と自分の運命を俯瞰している感じでした。

練習をする楠木さん  
2005年(自宅にて)



結果としては、私の陣の札が読まれて、神様が私に「かるたを続けなさい。」と仰っているのだなと思いました。西日本予選に勝つてからは、今まであんなにやめると言っていたのも忘れて、すごく練習にのめり込むようになりました。

**競技かるたを勝ち抜くヒケツは何ですか？**

やはり、集中力ですね。どんな場面でも冷静に、札や読み手の声に耳を傾けるといって集中力です。一回九十分の競技中ずつと、周りに気を取られず集中して、自分の世界にだけだけこもれるかですね。集中するためには、他に気になることがない状態をつくるのが大事です。ですから、やらないといけないことは全部終わらせてから、練習したり試合に臨んだりすることが大切だと思います。

それから、試合前二週間くらいは、「空気を「つくる」ようにしています。具体的には、他の楽しみや遊びなどの誘惑を断ち切るという事です。「自分にとって何が最優先事項なのか」を考え、行動することで、心も集中してきます。誘惑に負けて遊んだりすると、私の場合は心が乱れるんですね。きつと本番で運が味方してくれないと思うんです。

**競技かるたの魅力は何ですか？**

日本一を競う名人戦とクイーン戦は男女別で行いますが、普通の大会は男女も年齢も関係なく競技をするので、そこが魅力です。また、対戦相手は人間なので、かけひきなどのメンタル的な部分や、記憶力などの頭脳的な部分が必要で、将棋や囲碁のようなマインドスポーツ的な要素があるところが好きです。

**小学校の先生になられたきっかけは何ですか？**

ありがたいことに、かるたクイーンになって、全国の小学校や中学校などから講演の依頼をいただきました。私はまだ高校生でしたが、各地で多くの小中学生と出会う機会があり、小学生がすごく素直に何でも吸収するところを見て、「子どもたちに自分が経験したことを伝えたいな。」と思うようになったのです。大学を選ぶときには、もう小学校の先生になることを決めていたので、そのコースがある大学に進みました。教員になった今、日々、子どもたちと一緒に成長させてもらっていることを実感でき、自分の選択は間違っていないかと思えます。

ひとロメロ

楠木さんの  
「運」を味方につける”  
験担ぎ

- 大会に向かう電車や新幹線の時刻はいつも決めている。
- 大会会場の最寄りの駅についたら、食事の場所も立ち寄りコンビニも決めている。
- ホテルの朝食ビュッフェで食べるメニューを決めている。
- ある踏切に引っかからないように通るようにしている。
- 父にもらったタオルを試合に必ずもっていく。など



現在の勤務校にて  
2016年(福岡県豊前市)

**小学校の先生としての目標はどんなことですか？**

自分としては競技かるたで「積み重ね」を大事に生きてきたので、教員生活でも一つひとつの積み重ねの結果として、子どもたちにいいものをあたえられるようになるのだと思っています。また、かるたでもそうであったように、「子どもたちと「真剣に向き合う」ということも大事にしています。子どもたちには、一人ひとりにいいところと苦手なところがあって、いいところはもつ

と伸ばしてあげたいと思います。また、苦手なところはどうかとってほしいかという目標をもつようにしています。例えば、自分が悪かったことを受け入れる気持ちが弱い子が、自分が悪いのに悪くないと言い張っていても、ちよつと悪かったと認められるようになったり、日記の中に「今日はこれが悪くて心配かけてごめんなさい。」などと書いてあったりすると、少しずつでも心の中で成長があることをほめてあげられます。このように対応できるように、子ども一人ひとりに対する目標をなるべくもつようにしています。